

平成 29 年度 第 2 回富山市障害者自立支援協議会（全体会） 会議録

日 時：平成 30 年 1 月 10 日（水） 14：00～15：30

場 所：富山市役所東館 8 階 802 会議室

出席者：宮 田 伸 朗 会長、野 尻 昭 一 委員、麻 生 光 男 委員、
井 波 博 典 委員、大 井 きよみ 委員、荻 布 知 寿子 委員、
折 江 鈴 子 委員、澤 田 和 秀 委員、竹 邦 子 委員、
土 居 恵 利子 委員、富 田 光 圀 委員、野 口 雅 司 委員、
服 部 孝 則 委員、山 村 敏 博 委員

欠席者：岡 本 武 勇 委員、金 子 かつよ 委員、塚 田 彰 委員、
森 本 滋 委員、山 方 功 委員、吉 山 泉 委員

事務局：西田 福祉保健部長、作田 福祉保健部次長、山口 福祉保健部次長
宮崎 保健予防課長、中島 障害福祉課長、豊岡 障害福祉課課長代理、
遊道 障害福祉課副主幹、恒川 障害福祉課企画係長、浅島 障害福祉課障害福祉係長、
佐藤 障害福祉課自立支援係長、唐木 障害福祉課医療係長、神戸 障害福祉課主査、
吉田 障害福祉課主任

市委託相談支援事業所：

自立生活支援センター富山、富山市恵光学園、セーナー苑 We ネット、
ゆりの木の里相談支援事業所、あすなろセンター、和敬会生活支援センター、
フィールドラベンダー、富山市障害者福祉センター基幹相談支援室

オブザーバー：富山市身体障害者福祉協議会副会長 堀 恵一 氏

議 題：第 5 期富山市障害福祉計画及び第 1 期富山市障害児福祉計画の素案について

（会議資料）

- 1 ノーマライゼーション社会の実現をめざして
第 5 期富山市障害福祉計画 第 1 期富山市障害児福祉計画 素案
- 2 「第 5 期富山市障害福祉計画及び第 1 期富山市障害児福祉計画」素案について

内容：

- 1 開会（司会進行：豊岡課長代理）
- 2 部長あいさつ（西田福祉保健部長）
- 3 委員等紹介
- 4 会長あいさつ（宮田会長）
- 5 議事

第 5 期富山市障害福祉計画及び第 1 期富山市障害児福祉計画の素案について

(事務局)

資料に基づき、内容説明（説明者：中島障害福祉課長、恒川障害福祉課企画係長）

[意見・質問]

別紙「平成29年度第2回富山市障害者自立支援協議会での質疑応答内容」参照

平成29年度 第2回富山市障害者自立支援協議会（全体会）での質疑応答内容

(1) 第5期富山市障害福祉計画について

項目	質問	回答	関連頁
2 在宅サービスの充実 ・短期入所事業	・短期入所の絶対量が不足しているのではないか。 ・在宅生活を支援するには、家族のレスパイトとして、短期入所の整備が大切である。	・短期入所については不足しており、在宅生活を支えていくためには重要であることから、少しでも増やしたいと考えている。計画の中で、不足している障害福祉サービス施設について、国の補助金を活用し整備することを盛り込んでいる。どのように確保していくかについては、今後の課題である。	<u>P38</u> P13 P35 P53
・療養介護事業	・療養介護の見込み数が少ないのではないかと。現状と平成30年度に新しくできる事業所の定員について聞かせていただきたい。	・本市の療養介護事業所は、2事業所、28年度の利用者は83人である。 ・平成30年度にできる事業所の定員については、平成30年度は18人、平成31年度は24人、平成32年度は29人、平成33年度で30人と、段階的に増やしていくとお聞きしている。本計画では、新しくできる事業所の定員の1/3を富山市分として見込んだ。	<u>P53</u> P34
3 就労支援の充実	・障害者の法定雇用率について、現状では達成しているのか、また、来年、法定雇用率が改定されるが、そのことと本計画との関係について聞かせていただきたい。	・障害者の法定雇用率については、達成していると思われるが、最新のデータが手元にないため、次回の協議会時にお伝えする。 ・障害者全体の雇用については、第3次富山市障害者計画の中に位置づいており、本計画は、障害者総合支援法に基づく障害福祉サービスの実施計画ということから、福祉的就労（就労継続支援A型、就労継続支援B型、就労移行支援の利用者）の方の、一般就労を促進することとしている。	P22～23 P28～29 P37～38 P49～52

<p>5 地域生活拠点等の整備</p>	<p>地域生活拠点については、どこから進めるのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活拠点機能の整備については、多機能拠点整備型、面的整備型のどちらのタイプで整備するかを含め、今後、自立支援協議会等で意見を聞きながら整備していく。 ・24時間の相談支援体制を将来にわたって持続可能なものとして実施していくには、財源等の課題がある。 ・地域生活拠点については、地域共生社会の関係事業を含め、昨年5月に立ち上げた、部局横断型のプロジェクトチームで検討し、その後、自立支援協議会で相談させていただく。 	<p><u>P21</u> P6 P27 P40</p>
<p>7 地域共生社会の推進体制の構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「わがごと・まるごと」地域で支援と言われているが、地域の中の誰が中心になって進めていくのか課題である。 ・民生委員としては、メンタルヘルスサポーターや町内会等の地域の各団体と助け合える部分を見つけて協力していくよう考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者については、32か所の地域包括支援センターが、老人クラブ、民生委員、社会福祉協議会、自治振興会等の地域の関係団体と密着して高齢者を支えるしくみが定着してきている。 ・障害者については、委託相談支援事業所を整備しており、これまでは、障害者のサービスの計画を立てること等が大きな役割であった。これからは、障害者を地域で支える役割を担っていくようなしくみに変えていけるように考えている。 ・地域に一番近い行政の機関として、地区センターや保健福祉センターがある。地域の行政機関が様々な課題を1か所にまとめ、地域の方と一緒に検討していくしくみを、地域を選定し、モデル的に実施することを考えている。 ・誰が地域の中で中心になって進めていくかについては、実際は、自治振興会や社会福祉協議会、民生委員など地域によってそれぞれである。地域特性を考慮し、地域の中の縦割りの部分を横につなげ、動きやすいしくみを考えていく。 	<p><u>P21</u> <u>P23～24</u> P6～7 P39 P41～42</p>

<p>・人材の育成</p>	<p>・障害福祉の現場において、人材は不足していないか、人材育成に関してどのようなになっているか。</p>	<p>・現在、障害福祉の現場でも人材は不足している。特に、重度訪問介護や強度行動障害、同行援護のサービスを提供する人材が不足している。</p> <p>・専門分野の人材育成については、重度訪問介護従事者研修や同行援護従事者研修、強度行動障害従事者研修を実施している開催団体と連携し、事業者にも周知していくこと、専門職だけでは支えきれないことから、地域共生の中で、「わがごと」として考えてもらう人材の育成を図っていくこと、また、複合的な課題のある家庭には、たくさんの方が関わっていることから、効率性も考えて対応する人材の育成を図ることについて計画に盛り込んでいる。</p>	<p><u>P20</u> <u>P24</u> <u>P42</u> P34 P35 P36</p>
<p>・在宅の障害のある人に対する防災対策</p>	<p>・障害者が利用できる福祉避難所は、何か所あるのか、今後、何か所増やしていくのか聞かせていただきたい。</p> <p>・しらとり特別支援学校は福祉避難所の指定を受けている。指定の段階では説明があったと思うが、年月が経過していることから福祉避難所がしなければいけないことが伝わっていないので、改めて確認する。</p>	<p>・福祉避難所は、グループホームを中心とした障害福祉サービス事業所が12か所、特別支援学校が2か所、介護保険のサービス事業所が40か所、合計54か所が指定されている。</p> <p>・避難所の必要数については、今後の検討課題と考えている。グループホーム以外の事業所にも声をかけ、福祉避難所として指定することに努めていく。</p> <p>・ご指摘のあった事については、担当課である防災対策課に伝える。</p>	<p><u>P42</u></p> <p>P42</p>

(2) 第1期富山市障害児福祉計画について

項目	質問	回答	関連 ページ
<p>1 相談体制の整備</p> <p>・障害の早期発見・早期サポート</p>	<p>・障害となる前の予防的な段階の支援について、母子保健分野の方も学ぶことが必要ではないか。</p> <p>・障害児の支援については、親の障害受容の支援と、子どもの障害の早期発見、早期療育への支援が大切である。</p>	<p>・母子保健との連携については、本計画の中でも、P68の妊娠期からの相談支援を位置づけており、P73のイメージ図に示したとおり、切れ目なく支援を行っていきたいと考えている。</p>	<p><u>P68</u> P7 P19 P72～73</p>
<p>2 特別な支援が必要な障害児に対する支援体制の整備</p> <p>・重症心身障害児に対する支援</p>	<p>・障害福祉サービス事業者として、サービスを利用する重症心身障害児の送迎が大変になってきており、送迎に対する支援と送迎用の特殊車両購入の支援について、計画に入れて欲しい。</p>	<p>・障害児も含めて移動支援については、「障害者の移動に関する検討会」を実施し、障害者が移動でどんなことに困難があるのか移動の課題や解決方法、地域で支えるしくみづくり、今後のあり方等について、検討することを計画に盛り込んでいる。</p>	<p><u>P35</u> P61 P70</p>
<p>・医療的ケア児に対する支援</p>	<p>・特別支援学校が医療的ケア児を受け入れる場合、看護師を配置しているが、全ての医療的ケア児が特別支援学校に入るわけではない。本計画では、保育所や障害児通所支援事業所等の職員をサポートする看護師を派遣する計画となっているが、一般の小・中学校にも拡大する必要があるのではないか。</p>	<p>・そのように対応していきたい。</p>	<p><u>P70～71</u> P6～7 P13</p>